

費ス故ニウヘズ味ハ常ノ大麥ノ如シ、

〔倭訓栞後編十六〕半むぎ中 大麥に荒麥といふあり、裸麥といふあり、一種紫麥あり、紺屋麥とも

いふ、一種ねぢ麥あり、穂の形捻たり、一種つかす麥あり、皮殻脱し易し、一種糯麥あり、粘滑也、西國にて朝鮮むぎといふ、俗にあかはだかともいふ、小麥は白粉と稱するを佳とす、はまむぎは長壽麥也、住吉の濱に多し、

〔成形圖說五十七〕中牟義略

凡大麥の種類無慮三十餘品あり、穂の直立するあり、垂るあり、芒に亦長短あり、大麥は芒總て長く、其實亦太し、穗房に四角六角等の粒あり、角の多きほど取實も隨て夥し、中

又麥種の中にも實知子は、地を踏す取實最饒し、凡麥粟の類、土地がらの美莠を妨す、成實あるを地を踏すといふ、又些小麥は其實極て細し、小麥に似て味亦よし、又紫麥紺屋麥ともいふ、禾穂紫色染屋の紫染に用ふるものとあり、

〔鹽尻六十一〕糯麥和俗アカムギ 近世朝鮮より其種を傳へ來るものいとよし、西國の民朝鮮麥といふ、麥切にして味美也、

〔東海道名所記四〕宿川藤を出れば、畠に高野麥とて、一種穂のむらさきなる麥のはへてみえければ男、

藤川や畠の麥に風ふけばたちて音なきむらさきの波

〔昆陽漫錄〕麥

豊後國武田の川中の島に、年々自然と生ずる麥あり、一民取り來りて作るに實のり甚多くして、農民の助になれるによりて、敦書懇求して、此麥を得て、官へ稟し、國々へやりて作らせ試みるに、地に應ずる所にては、常の麥とは、格別實多し、地に應せざる所は、常の麥に同じと云ふ、よく作り